

‘Nuzi Personal Names’ (Gelb, et al. 1943) (以後、単に史料と記す。)は「ヌジ文書」の人名による索引である。教科書・研究書やマニュアルの類には索引がつきものだ。無ければ目次から類推して目的の語句を探すことになり往生することがある反面、索引だけの書物というのも奇異な感じを受ける。「ヌジ文書」が貴重かつ歴大な文書であり必要性が求められたものと推察される。はじめでこの史料に出会ったのは、民族学博物館の久保正敏教授のもとに伺いコピーをさせていただいたときにさかのぼる。10年以上も前のことである。その後、Mac用ファイルとして保存・放置されていたのを、急遽解析することになったのには報告書の作成に追い立てられたいきさつがある。

史料の源となっている「ヌジ文書」とは古代メソポタミア、イラク北東部の都市ヌジ遺跡から出土した粘土板に楔形文字で記された契約書であり、主に土地などの財産の売買・貸付・交換に関する契約、あるいは労働に関する契約が記されている(牧野, 史学1991)。史料からは契約書に登場する人名およびその親族関係、契約の内容を記した文献名、その巻数、行番号などを参照することができる。

史料から名前を抜き出すことによってヌジ社会の特徴の一端を垣間見ることができる。テヒプティラという人物は全契約の3割を占めるほど多くの契約に関わる。大富豪なのであろうと想像される。ティアという名の同名の人物は120人以上も存在する。約4000の名前に対して平均2.7人の同名の人が存在する勘定だ。名前の頭文字は、A、S、K、T、H、...の順に多い。

親族関係の表示は通常は2世代の親子名、すなわち、ブヒシェンニの息子テヒプティラ、ハマツタルの息子イルヤ、というように親子の対として記載される。稀に、3世代、4世代にわたる関係が記載される。それらを丹念に、あたかもジグソーパズルを埋めるかの如く、ペアの名前を重ねていくことによって家系図を構築していくのは楽しい。

その結果、最大家系5世代15人のテヒプティラの家系が構成された。富が次世代へと継承されていく過程をみるようである。

何故、契約をする際に親子の名を記載する必要があったのか。金銭の借用やアパートを借りる際には、現在も保証人に親族の名を記すことは多い。

ヌジの契約書には別途、証人・書記の名前が記載される。ヌジ社会に限定すれば、上記タイアを筆頭に同名者の多い社会環境において、親子のペアで名前を記すことは個人を特定する上で簡便で有効な手段であったと思われる。

当初のFortranによるプログラミングを、マッチングに適したPerlに乗り換えることにより、文献名の解析にも着手することができた。家系図に個々の人物の契約文書の情報を重ね合わせることでおおよその世代の同定が可能になった。すなわち、契約当事者同志を同世代、その親同志も同世代とみなし家系図間を関連づけることが可能になったのである。

文献名および巻数から検索することで1文献中に登場するヌジ名を取り出すことができる。ヌジ文書の再構築である。例えば、文献JEN560には114行にわたって文字が刻まれ、37人の名前が登場する。また、別人とされた人物の双方に関わる文献を照合した結果、同一人物であることが判明するというような判断材料になる場合もある。テヒプティラという名は史料では29人存在しているように扱われているが、その内6人が同一人物であることが判明した。契約数が多いほど判明率も高い。名前の表記のバリエーションから書記のルーツをさぐるという可能性も見逃せない。

この一連の解析過程によりデータチェックの難しさ・煩雑さを痛感した。種々の誤入力を修正するのは、プログラミングと比較して、その数十倍、数百倍の労力と忍耐を要する手間のかかる作業である。未だに修正が終了したと断言することはできない。

‘Nuzi Personal Names’には多くの情報が潜んでいる。今後この改訂版を公表したいと考えている。

‘Nuzi Personal Names’ 部分

HUTIP-LA

Hu-ti-ip-la (read *Hu-ti-ip-(til)-la?*)

- 1) f. of *Ši-mi-qa-a-tal*, JEN 116:1, 26

HUTIP-ŠARRI

Hu-ti-ip-šarri, var. (2) *Hu-di-ip-šarri*

- 1) s. of *Ki-in-nu-uz-(si)*, JENu 220
- 2) s. of *Te-eš-šu-ia*, (2) JEN 245:18; 304:21; ^{am}*a-bu-ul-ta-nu*, AASOR XVI 60:35, 47 (see also *Hutija*, s. of *idem*)
- 3) f. of *A-ki-p-ta-še-ni*, HSS IX 9:25
- 4) f. of *Ar-ti-ir-wi*, JEN 669:1, 5, 15, 17
- 5) scribe, HSS IX 36:31, 39; RA XXIII 6:23; 25:14; RI 309:40; TCL IX 7:33
- 6) JEN 618:3, 13, 14, 18, 27; JENu 65